

令和3年度 学習案内 (シラバス)

教科	家庭	学年	1	担当者	原田 淳子
----	----	----	---	-----	-------

◇ 家庭分野の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

◇ 1年間の学習計画

月	学習内容	月	学習内容
11	技 術 分 野 の 授 業	4	ガイダンス A 家族・家庭生活 自分の成長と家族・家庭
12		5	B 衣食住の生活 住生活の基本 住まいのはたらき
1		6	空気環境と防災・防犯 持続可能な住生活
2		7	住まいの安全 家庭内事故のへの備え (高齢者理解を含む)
3		8	B 衣食住の生活 自分らしくコーディネート
		9	上手な衣服の選択
		10	衣服の計画的な活用と選択
			衣服の手入れ
			布を用いた製作

◇ 評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		評価の方法
知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、消費や環境などについて理解しているとともにそれらに係る技能を身に着けている。	・作業の状況・製作品・授業態度・授業プリント、定期テスト・技能テスト
思考・判断・表現	今後の生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価改善し考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に着けている。	・作業の状況・製作品・授業プリント、定期テスト
主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	・授業プリント、レポート課題

◇ 学習のアドバイス

ガイダンスでは、中学生になるまでの自分をふり振り返り、自身が成長するまでにはさまざまな人との関わりや生活があることを確認しましょう。3年間の見通しを持ち、授業の中で各自の課題を見つけ、課題解決をする中で、問題解決能力を身につけていきます。また、実験・実習を通して、準備するものや身支度や注意点なども学びます。実生活に生かしやすいように重要なキーワードや作業の流れを繰り返し学び、家庭生活に活かす事を目的とし自立にむけてイメージをふくらませられるように集中して取り組んでください。

令和3年度 学習案内 (シラバス)

教科	家庭	学年	2	担当者	原田 淳子
----	----	----	---	-----	-------

◇ 家庭分野の目標

実践的・体験的な学習活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を習得するとともに、家庭・地域・環境とのかかわりについて理解を深め、学んだことを生活に生かせる能力と態度を育てる。

◇ 1年間の学習計画

月	学習内容	月	学習内容
11	B 衣食住の生活 自分らしくコーディネート 上手な衣服の選択 衣服の計画的な活用と選択 衣服の手入れ	4	技 術 分 野 の 授 業
12	調理の基本と安全な調理 調理の目的・安全な調理 環境に配慮した調理	5	
1	おいしさとは うま味と出し 日常食の調理 (肉・魚・野菜) 食品の選択と保存 郷土料理 (だんご実習)	6	
2	住生活の基本 住まいのはたらき 空気環境と防災・防犯 持続可能な住生活	7	
3	住まいの安全 家庭内事故のへの備え (高齢者理解を含む)	9	
	布を用いた製作	10	

◇ 評価方法

	評価の観点 (身に付けたい力)	評価の方法
知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、消費や環境などについて理解していると同時にそれらに係る技能を身に着けている。	・作業の状況・製作品・授業態度・学習ノート・技能テスト・テスト
思考・判断・表現	今後の生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価改善し考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に着けている。	・作業の状況・製作品・授業態度・学習ノート
主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	・作業の状況・製作品・学習ノート・技能テスト

◇ 学習のアドバイス

自分の食生活をふり返り、食事の役割や健康への影響に関心を持ちましょう。栄養素や献立、食品等の学習を進めながら、膨大な情報の中から信頼できる情報を得、判断していく意識をつけます。裁縫や調理の実習では、1年の知識・技能をさらにレベルアップできるように、グループでの学び合いや繰り返しの作業を大切に積み重ねていきましょう。住生活では、住まいを安全に工夫していく能力を高めていけるように、資料を確認しながら住宅の在り方や、高齢者の身体感覚の疑似体験学習の準備もしています。集中して取り組み、学んだことを実生活に生かせるようにしてください。

令和3年度 学習案内 (シラバス)

教科	家庭	学年	3	担当者	原田 淳子
----	----	----	---	-----	-------

◇ 家庭分野の目標

実践的・体験的な学習活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を習得するとともに、家庭・地域・環境とのかかわりについて理解を深め、学んだことを生活に生かせる能力と態度を育てる。

◇ 1年間の学習計画

月	学習内容	月	学習内容
4	A 家族・家庭生活 幼児の頃と今の自分 幼児の体の特徴 幼児の心の特徴 発達にとってのおとなの役割 遊びが必要なわけ 遊びを支える環境 幼児の観察や遊び道具の製作 おもちゃ作り クラス内のグループごとに 模擬ふれあい実習 幼児向けおやつ作り(予定)	11	C 消費生活・環境 家庭生活と消費 購入・支払いと生活情報 消費者被害と消費者の自立 持続可能な社会 生活の課題と実践 レポート課題
5		12	
6		1	
7		2	
9			
10			

◇ 評価方法

	評価の観点 (身に付けたい力)	評価の方法
知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、消費や環境などについて理解しているとともにそれらに係る技能を身に着けている。	・作業の状況・製作品・授業態度・学習ノート・技能テスト・テスト
思考・判断・表現	今後の生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価改善し考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に着けている。	・作業の状況・製作品・授業態度・学習ノート
主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	・作業の状況・製作品・学習ノート・技能テスト

◇ 学習のアドバイス

幼児の体と心の発達を知り、その成長が家族・地域・行政機関に支えられていることを学びましょう。幼児の年齢や興味に合っているかを考慮し、お話し袋を作成し、模擬ふれあい実習を行います。対象となる子どもを想定すると、アイデアをふくらませやすくなります。工夫をこらした作品を作りあげてください。中学生の消費者トラブルという身近な問題点を知り、よりよい消費生活への関心を高めましょう。また、消費生活が与える環境への負荷を考え、生活の具体的な取り組みに生かしてください。最後に自分で課題を設定して、実践に向けたレポート課題に取り組みます。

月	学習内容	時間	学習活動（○） および指導目標（□）
4月	自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり A（1）B、C A（2）アイ	2	○自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりを知る。 ○現代の家庭のはたらきと家庭と社会のつながりについて知る。 ○家族には様々な形があり、ひとりひとりが家族内や社会とつながっていることを知る。 ○家族が互いに立場や役割があり、協力して家族関係をよりよくしようとするのが大切なことにきづかせ、自分が家族の一員として自覚し、できることを考えられるようにする。
5月	中学生にとっての家族、家庭を支える社会 A（1）	2	○家庭生活は地域の支援があって成り立っていることに気づき、中学生の自分が地域の一員として、地域のためにできることを考える。 ○地域の活動から地域の課題を知り、地域の人たちと関わろうとする。
6月	食事が果たす役割・健康によい食習慣 B（1）ア B（2） 栄養素と食品群 食生活の改善点	8	○食生活の大切さを感じた体験をあげたり、小学校での栄養素の勉強を振り返らせるなど食生活に興味を持たせる。 ○成長期の食事の大切さを理科し、自分の食生活を振り返る。 ○学校給食でよく登場するメニューから栄養的特徴について調べるなど、栄養素の種類とはたらきを理解する。
7月	生鮮食品の選択と保存、加工食品の選択 食品の安全と情報。 B（2）B（3） ア、イ、エ	6	○中学生時期の栄養の特徴を理解する。 ○食品群別摂取量のめやすを参考にし、実物の提示をするなどして、中学生時期に必要な栄養素を満たす食品の一日分の概量を理解する。
9月		8	○基本を学ぶ、だしのうまみ、調理室の使い方 ○地域の食文化 調理実習（お団子）。
	布を用いた小物の製作	2 7	○製作に必要な材料・用具・目的に合った縫い方などを知る。 作品を作る。
10月			

月	学習内容	時間	学習活動（○） および指導目標（□）
11月	中学生の1日に必要な食品の種類と概量 B（2）ア	6	○食品群別摂取量のめやすを活用し、分量が示されている資料集などの調理の本を参考にし、一日分の献立を立てられるようにする。 □生鮮食品について鮮度、品質、衛生などの観点から食品を適切に選択できるようにする。
	食品の選択 B（2）ウ	8	□食品の品質表示を読みとり、適切に加工食品の選択ができるようにする。
	基礎的な日常食の調理・食品や調理用具等の適切な管理 B（3）ア	5	○食品に応じた保存方法を理解する。 □魚、野菜、肉を用いた簡単な日常食の調理計画を立て、調理ができるようにする。
12月	食生活についての課題と実践 B（3）ウ	8	□調理の安全や衛生に気をつけ、さらに基礎的な技術を身につけさせる。
	食品や調理用具等の適切な管理 B（3）ア 地域の食材を生かした調理		○調理の目的にあった加熱方法が必要であることを知る。 ○食生活に関心を示し、食事の内容について見直すことができる。 □安全と衛生に留意し、食品や調理器具等の適切な管理ができるようにする。
1月	地域の食文化 B（3）イ		○地域の食材を生かすなどの調理を通して、地域の食文化について理解する。
2月	食生活についての課題と実践 B（3）ウ		○食生活に関心や課題をもつ。 □日常食又は地域の食材を生かした調理などの活動について工夫し、計画を立てて、実践できるようにする。
	住居の基本的な機能 C（1）ア	4	○家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知る。 ○家族の安全を考えた室内環境の整え方を知る。 □快適な住まい方を工夫できるようにする。
3月	安全な室内環境の整え方 安全で快適な住まい方の工夫 C（2）イ	2	
	布を用いた物の製作 C（3）ア	6	□布を用いた物の製作を通して、生活を豊かにするための工夫ができるようにする。

月	学習内容	時間	学習活動（○） および指導目標（□）
4月		1	自分の成長の記録を作る。
5月	幼児の発達と生活の特徴	2	○幼児の生活に関心を持つ。 ○自分達の出生児や幼児期の体重と身長から、幼児期の体の発育や発達の特徴を知る。
5月	家族の働き A（2）	2	○幼児期の情緒、ことば、社会性の発達の概要を知り、周囲の人との接し方が発達に大きく関わることを理解する。
6月	幼児の遊びの意義 A（3）イ	2	○幼児期に生活習慣をつけさせることの必要性を知り、生活習慣をつけさせるために家族などの身近な人の役割が重要であることに気づく。
6月	幼児との触れ合い かかわり方の工夫 A（3）	1	□自分の課題に沿って幼児を観察したり、幼児とふれあうことができるようにする。 ○中学生と幼児の食生活の違いを理解し、安全や衛生に配慮して幼児のおやつを調理する。 ○幼児の生活・体型がわかり、幼児服の特徴を知る。
7月			
9月	遊び道具の製作	5	○おもちゃの役割を知り、幼児についての理解を深める。 ○幼児と遊びで学習したことを生かし、幼児が喜ぶ遊び道具をつくる。
10月			
11月			
12月	消費者の基本的な権利と責任 C（1）	2	○買い物のシュミレーションをし、買うときの気持ち、買うときに迷うことを考える。
1月	販売方法の特徴 物資・サービスの選択 購入及び活用 C（1）	1,5	○物資、サービスの販売方法とその特徴、支払いの方法を知る。 ○最近の中高生が巻き込まれやすい販売方法の例を示し、その解決方法を理解する。 ○消費者の権利を知り、消費者の自覚をもつ。
2月	環境に配慮した消費生活の工夫と実践 C（2）	1	○自分たちの生活の工夫により、ごみを減らせることに気づき、環境に配慮した生活を心がけようとする。 ○商品を購入する時、環境に配慮した選択ができるようにする。